

**今日のトピック** ブラジルの金融政策（2017年1月）

**予想を上回る0.75%利下げ：新たな利下げペース示唆**

**ポイント1 予想を超える0.75%利下げ  
3会合連続の利下げ**

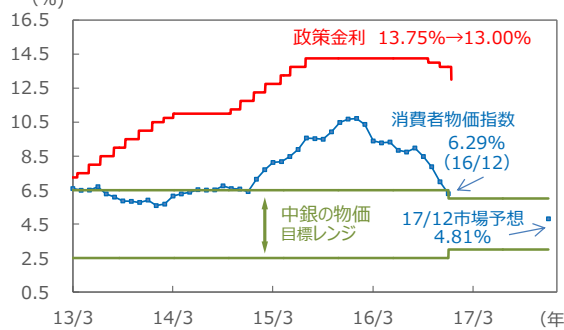
■ブラジル中央銀行（以下、中銀）は、11日の通貨政策委員会で、政策金利を13.75%から13.00%に引き下げることを全会一致で決定しました。0.75%の利下げは市場予想（ブルームバーグ、0.5%）を上回るものでした。利下げは3会合連続で、過去2回は0.25%ずつの利下げでした。

**ポイント2 新たな利下げペース示唆  
インフレ率が一段と低下**

■16年12月の消費者物価指数は前年同月比+6.29%と大きく低下し、16年の目標レンジ内に入りました。中銀は声明で、足元のインフレ率を予想以上に好ましい動きと評価し、インフレ率の見通しも、17年、18年と一段の低下を見込んでいます。

■インフレ率の低下を受けて、中銀は、今後新たなペースで利下げを行うことが可能としました。これは、インフレ率の鈍化や国内経済の弱さが想定を上回る一方、世界的なリスクが懸念したほどではないため通貨安に備える必要性が低いことが背景と考えられます。中銀は、リスク要因が顕在化しなければ0.75%のペースで利下げを行うものと見られます。

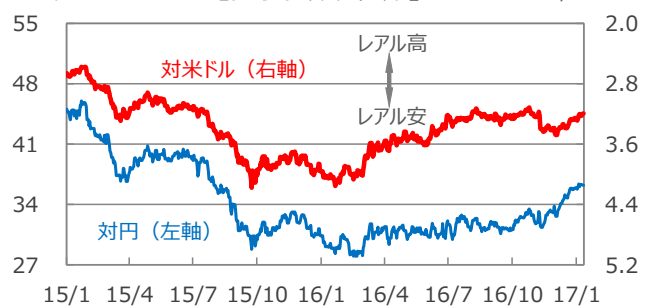
【消費者物価指数と政策金利】



(注) 政策金利は2013年3月1日～2017年1月11日。消費者物価指数は2013年3月～2016年12月。市場の物価予想は、中銀発表の1月6日付け市場予想。中銀の物価目標は年+4.5%。レンジは2016年末まで±2%、2017年は±1.5%。

(出所) Bloomberg L.P.、ブラジル中央銀行のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【ブラジルレアル】



(注) データは2015年1月1日～2017年1月11日。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

**今後の展開** **ブラジルレアルは堅調な動き**

■ブラジルの通貨レアルは、米大統領選でのトランプ氏の勝利を受けた世界的なドル高で、一時大幅に下落しましたが、資源価格の上昇もあって足元では持ち直し、対米ドル、対円で上昇基調にあります。11日の中銀の利下げ幅は市場予想を上回りましたが、レアルの下げ幅は限定的な動きとなっています（NY引け値時点）。テメル大統領が財政赤字に歯止めを掛ける改革を進めていることや、中銀が積極的な金融緩和を行っていることから、ブラジルの景気回復期待が支えとなり、レアルは堅調な動きが続くと見込まれます。

**ここもチェック!** **2016年12月 1日 最近の新興国通貨の動向（2016年12月）**  
**2016年10月20日 ブラジルの金融政策（2016年10月）**

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。